

平成 30 年度
燕・弥彦地域公共交通に関する各種調査結果報告

1 調査概要

(1) 公共交通に関するアンケート調査（高齢者対象）

①調査目的

高齢者を中心に、日常的な移動実態及び移動ニーズを把握するため、アンケート調査を実施する。

②対象者

燕市・弥彦村内の小学校区別に調査対象者抽出エリアを分割し、各エリアに居住する 65 歳以上の人口に対し、年齢階層別人口数に応じて按分して無作為抽出する。

③調査方法

質問紙を用いたアンケート調査

④配付・回収方法

郵送による配付・回収

⑤調査期間

平成 30 年 9 月 5 日（水曜日）から 9 月 16 日（日曜日）まで

⑥回収数

	配付数(人)	回収数(人)	回収率(%)	有効回答数(人)	有効回答率(%)
燕市	3,670			1,781	48.5
弥彦村	374			210	56.1
合計	4,044	2,057	50.8	1,991	49.2

(2) 学生（中学生、高校生）対象調査

①調査目的

日常的な移動手段として公共交通を利用している可能性のある学生（中学生・高校生）を対象に、移動実態及び移動ニーズを把握するため、アンケート調査を実施する。

②対象者

- ・燕・弥彦地域に立地している県立高等学校 2 校の生徒全員
- ・燕・弥彦地域に立地している県立中等教育学校 1 校の生徒全員

学校名	対象者数（人）
新潟県立吉田高等学校	379
新潟県立分水高等学校	215
新潟県立燕中等教育学校（1～6 年生）	451
合計	1,045

③調査方法

質問紙を用いたアンケート調査

④配付・回収方法

学校経由で生徒に対し1人1部調査票を配付し、学校経由で回収する。

⑤調査期間

調査票配付 平成30年9月4日（火曜日）

調査票回収 吉田高等学校 9月13日（木曜日）

分水高等学校 9月14日（金曜日）

燕中等教育学校 9月7日（金曜日）

⑥回収数

学校名	配付数(人)	回収数(人)	回収率(%)	有効回答数(人)	有効回答数(%)
吉田高等学校	378	354	93.7	353	93.4
分水高等学校	214	195	91.1	194	90.7
燕中等教育学校	448	432	96.4	432	96.4
合計	1040	981	94.3	979	94.1

(3) 公共交通利用者対象調査

①調査目的

日常的な移動手段として公共交通を利用している人を対象に、移動実態及び移動ニーズを把握するため、アンケート調査を実施する。

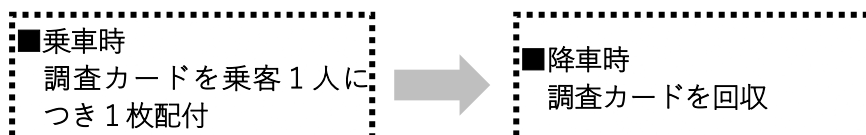
②対象者

下記路線乗客とし、始発から最終便までの全便調査

路線バス	■新潟交通観光バス（3路線） ①白根桜町～月潟～六分～燕駅前 ②白根桜町～茨曽根～燕駅前 ③新生町～燕駅前 ■越後交通（6路線） ④東三条駅前～八王寺～燕駅前 ⑤東三条駅前～済生会・八王寺～燕駅前 ⑥東三条駅前～済生会・渡部～寺泊車庫前（分水駅経由） ⑦東三条駅前～燕三条駅・地場産・渡部～寺泊車庫前（分水駅経由） ⑧東三条駅～燕三条駅～地場産センター ⑨東三条駅～八王子中央～燕駅
コミュニティバス	①スワロー号 ②やひこ号
デマンドタクシー	①きららん号1号車から6号車

③調査方法

・調査員が車両に乗車し、燕・弥彦地域公共交通利用実態調査カードを使用して乗降調査を実施する。



④調査日

平成 30 年 9 月 18 日（火曜日）

⑤回収数

	乗車人数（人）	回収数（人）	回収率（％）
スワロー号	123	115	93.5
やひこ号	107	96	89.7
きららん号	180	179	99.4
新潟交通観光バス		223	
越後交通 燕地区		68	
越後交通 分水地区		122	
合計		803	

(4) 観光客対象調査

①調査目的

観光客を対象とし、観光二次交通としての利用状況及び利用意向等を把握するためのアンケート調査を実施する。

②調査対象者

- ・自動車、タクシー、家族・友人等の運転等により、調査場所を訪れたと思われる観光客
- ・各調査場所とも 40 票程度の確保を目指す。

③調査場所

- ・調査場所 1 燕三条エリア：燕三条駅、燕三条 Wing、燕三条地場産センター
- ・調査場所 2 弥彦エリア：弥彦駅 彌彦神社、弥彦公園、おもてなし広場
- ・調査場所 3 分水エリア：道の駅国上、ふれあいパークてまりの湯

④調査方法

質問紙を用いたアンケート調査及び必要に応じて調査員のヒアリング調査

⑤調査日

平成 30 年 9 月 17 日（祝日・月曜日）9：00～17：00

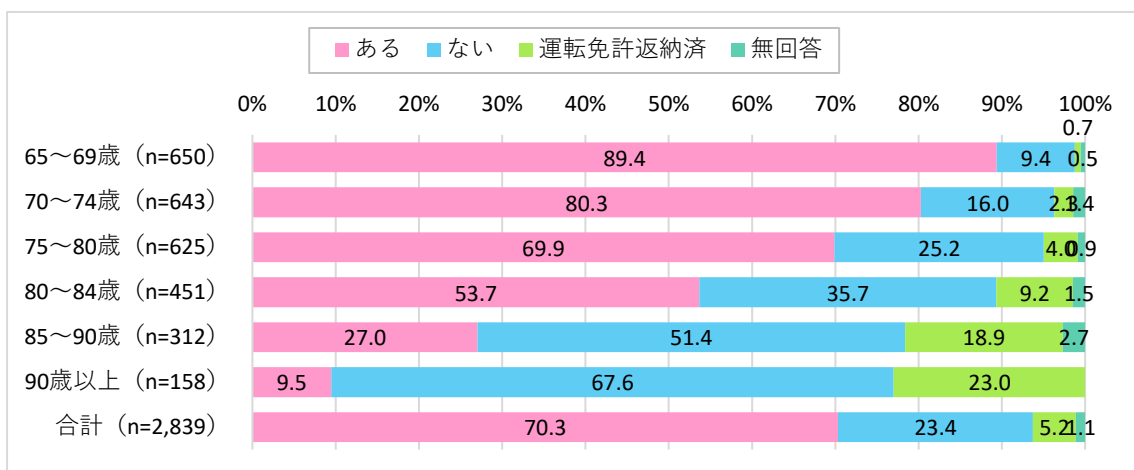
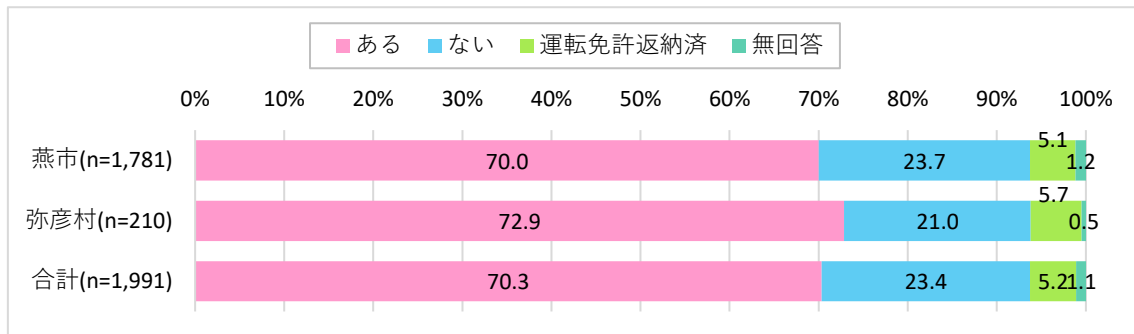
⑥回収数

調査場所	回収数
調査場所 1	49 票
調査場所 2	40 票
調査場所 3	50 票
合計	139 票

2 公共交通に関するアンケート調査（高齢者対象）

(1) 運転免許保有状況について

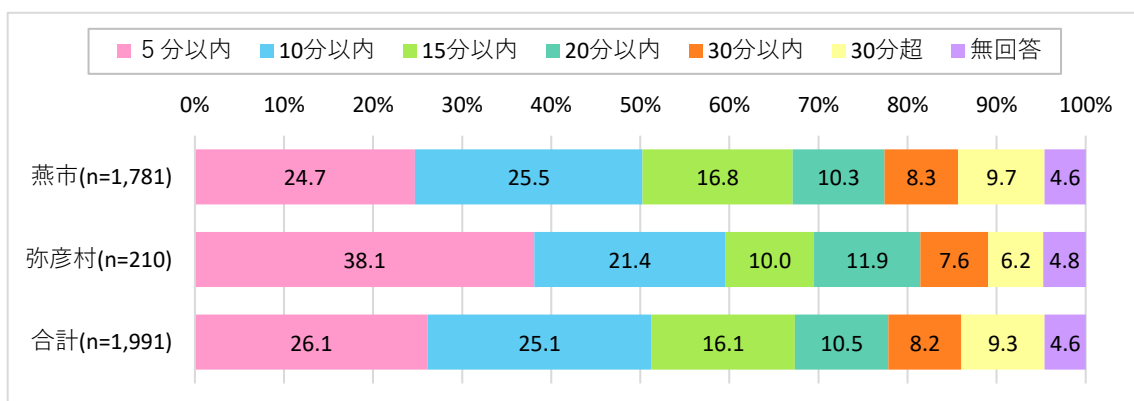
- 約7割の回答者が自動車運転免許を保有しており、燕市、弥彦村とも同傾向にある。
- 年齢階層別の状況も、高齢になるほど運転免許所有率が低下する。
- 高齢者人口の増加に伴い、高齢者の移動手段の確保の必要性は高まる一方である。



(2) 公共交通の利便性について

- 約半数の人が最寄りバス停や駅までの所要時間（徒歩）が10分以内である。
- 弥彦村においては、やひこ号の一部のエリアでフリー乗降を実施しているため、バス停までの距離が近い方が多いと想定される。
- 一部の地域では、最寄りバス停や駅までの所要時間が30分以上もある。

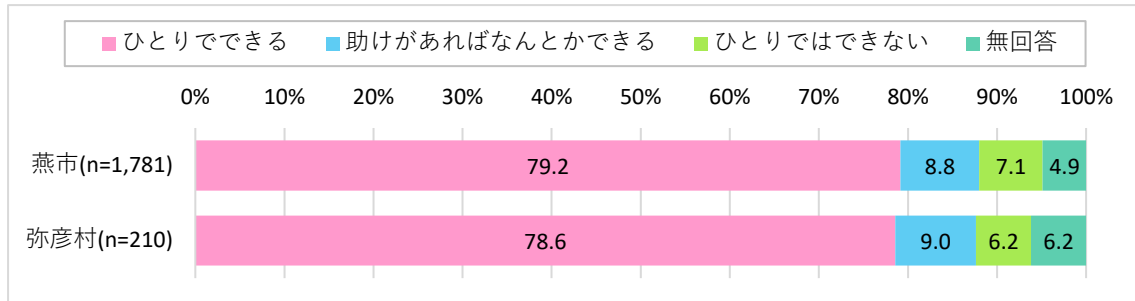
■最寄りのバス停、駅までの所要時間



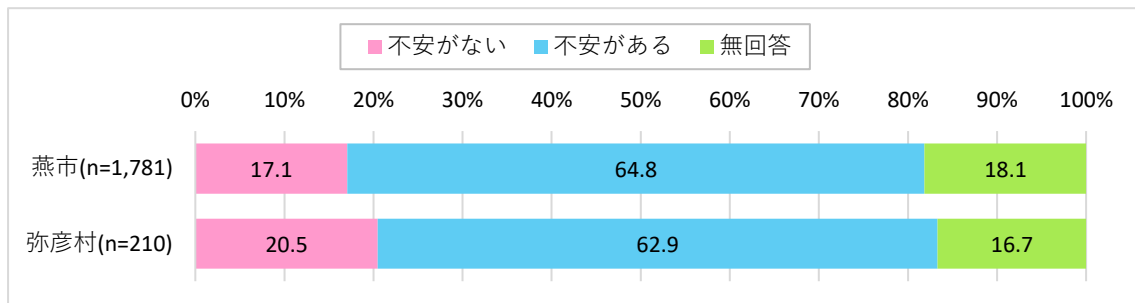
(3) 将来の移動の不安について

- 現在は、買い物や通院などの活動について、自家用車等を利用してひとりでできているが、将来の移動については、約6割以上が不安を感じている。

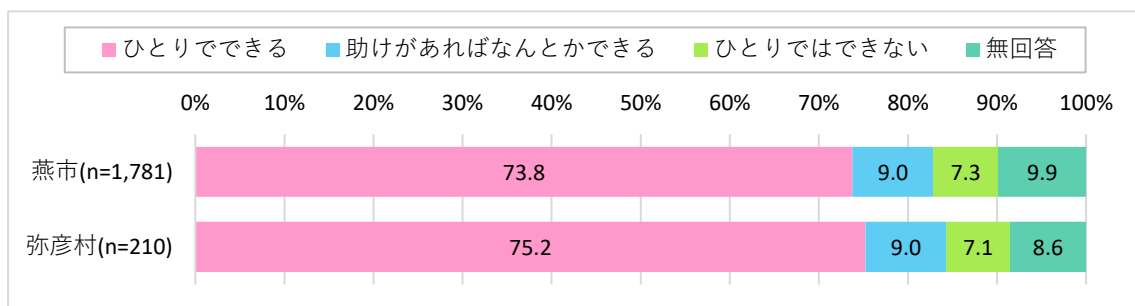
■買い物（現在）



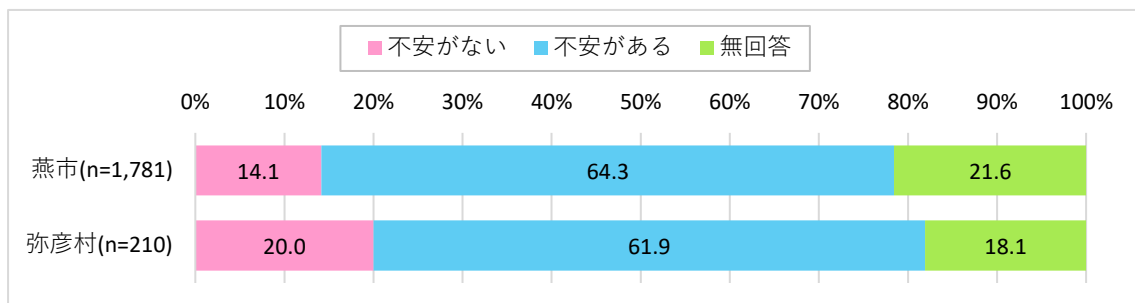
■買い物（将来）



■通院（現在）



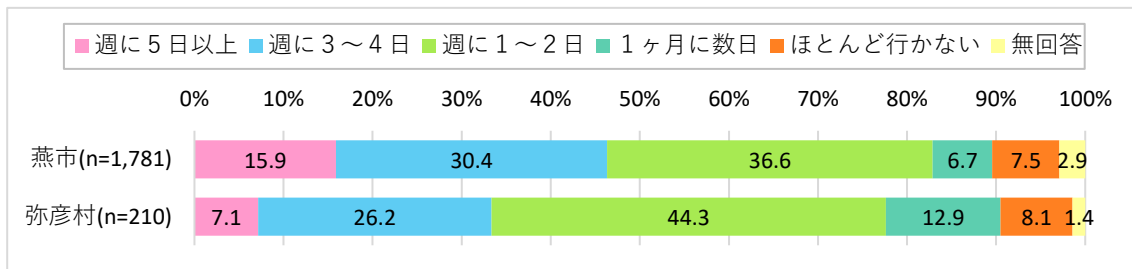
■通院（将来）



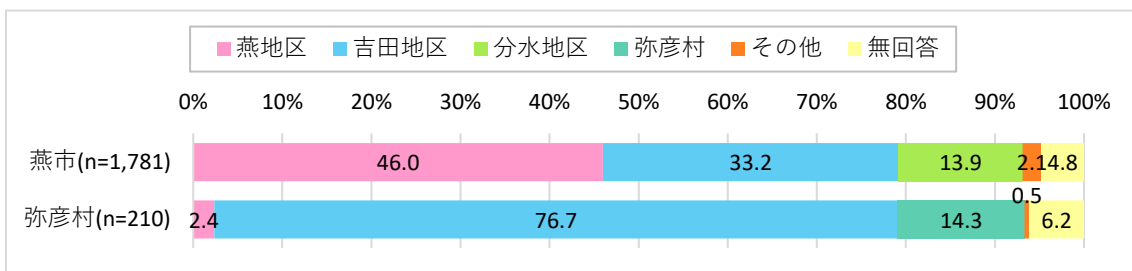
(4) 日常の買い物について

- 買い物の頻度は「週に1～2日」が最も多く、次いで「週に3～4日」となっている。週に1日以上は買い物のために外出している高齢者が7割を占めており、日常的に買い物に行く場所の確保、交通手段の提供は必要である。
- 買い物の行先では、燕市は「燕地区」(46.0%)と「吉田地区」(33.2%)と分散するが、弥彦村では約8割が「吉田地区」(76.7%)となっている。
- 燕市からは「燕地区」「吉田地区」、弥彦村からは「吉田地区」への移動手段が求められる。

■外出頻度



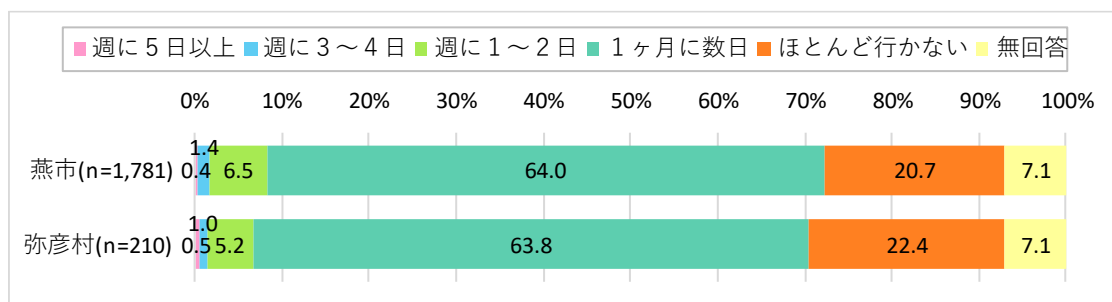
■外出目的地



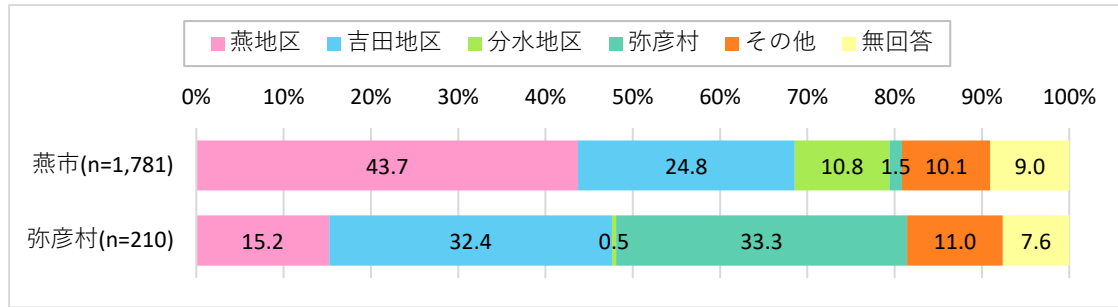
(5) 日常の通院について

- 通院の頻度は「1か月に数日」(合計 63.9%)が最も多い。
- 通院の行先では、燕市は「燕地区」(43.7%)と「吉田地区」(24.8%)と分散するが、弥彦村では「燕地区」(15.2%)、「吉田地区」(32.4%)、「弥彦村」(33.3%)となっている。
- 燕市からは「燕地区」「吉田地区」の両方、弥彦村から「燕地区」「吉田地区」「弥彦地区内」移動が必要である。

■外出頻度



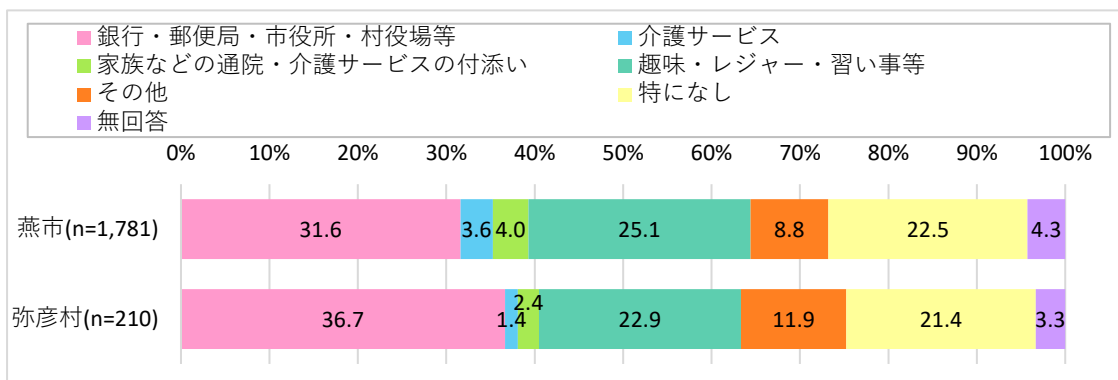
■外出目的地



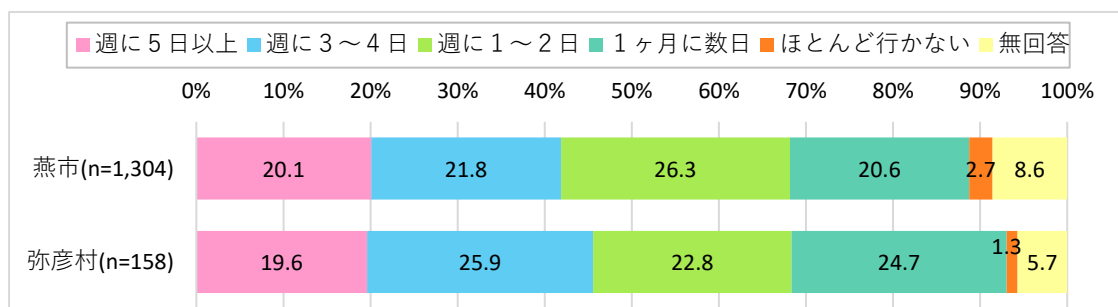
(6) 日常のその他の活動について

- 日常的に「銀行・郵便局・市役所・村役場」、「趣味、レジャー、習い事等」での外出が多く、週に1日以上の外出をする割合が約7割を占めている。
- 行先は、燕市では「燕地区」(40.8%)と「吉田地区」(26.7%)、弥彦村では「吉田地区」(41.1%)、「弥彦村」(33.5%)となっている。
- 燕市からは「燕地区」、「吉田地区」、弥彦村から「吉田地区」「弥彦地区内」への交通手段が必要である。

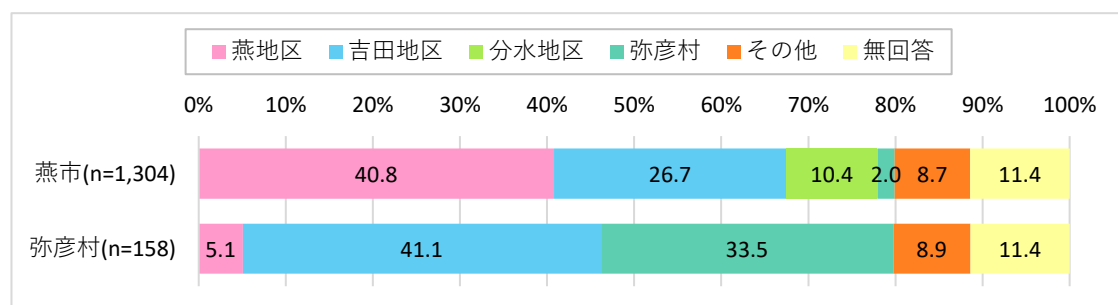
■外出目的



■外出頻度



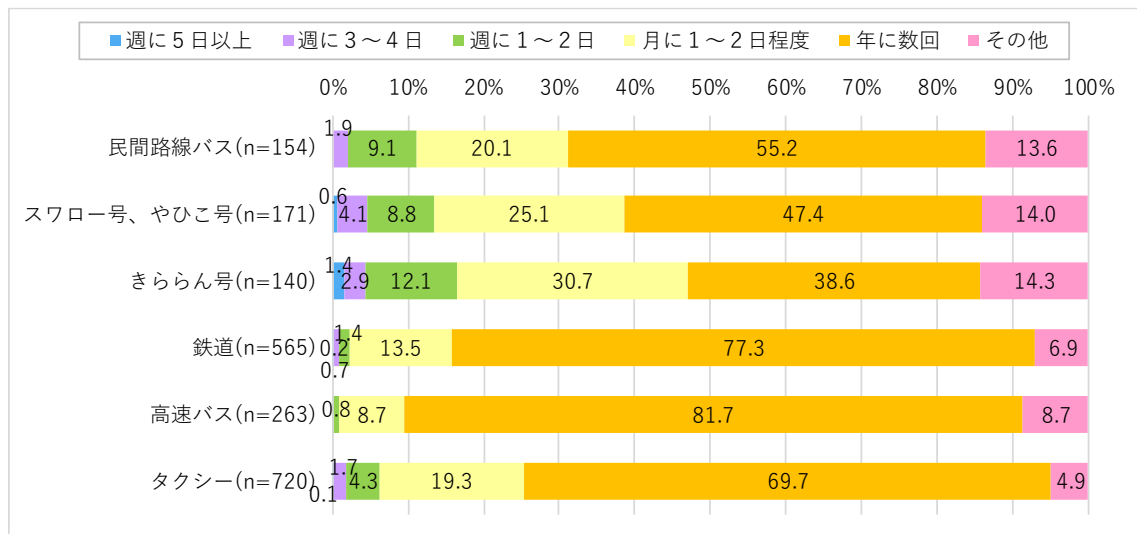
■外出目的地



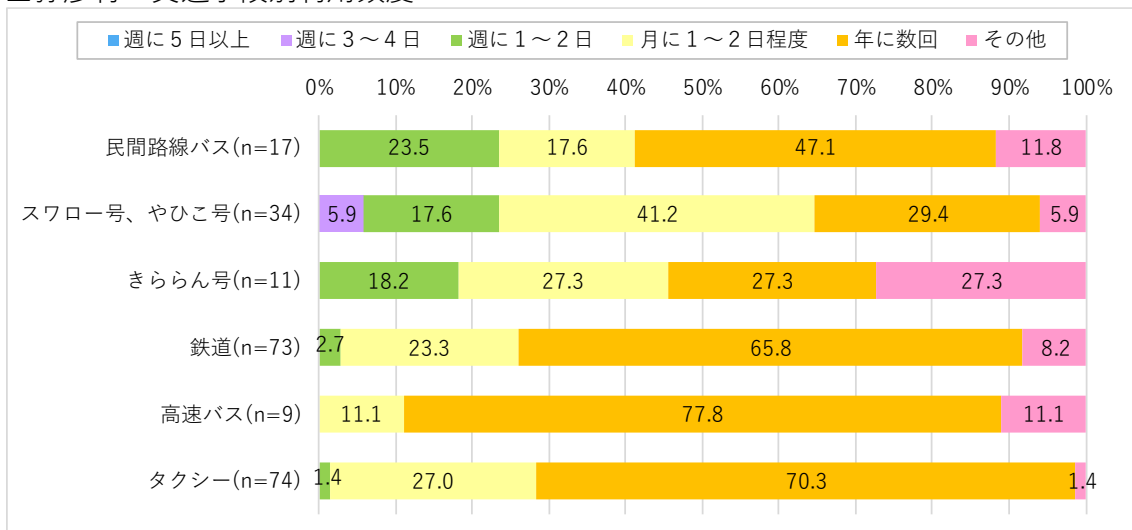
(7) 公共交通の利用について

- 路線バス、スワロー号、やひこ号を週に1日以上利用している方は、全体で1割程度である。
- 自宅から目的地前で乗降できるきららん号の利用が多い傾向にある。
- 鉄道や高速バスは広域的な移動に利用されるため、年に数回程度の利用となっている。
- 公共交通を利用しない理由としては、自家用車で移動するため必要ないが最も多い。

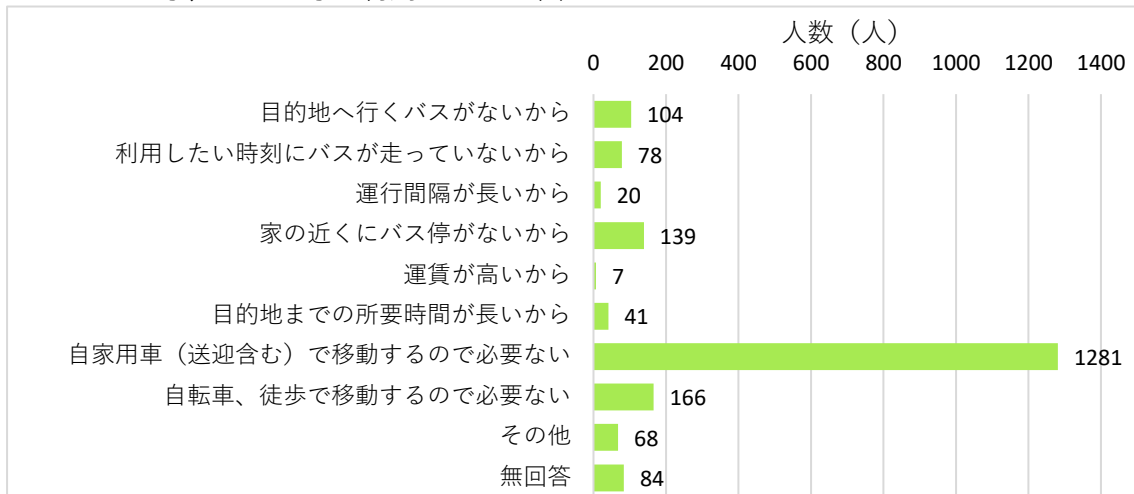
■燕市 交通手段別利用頻度



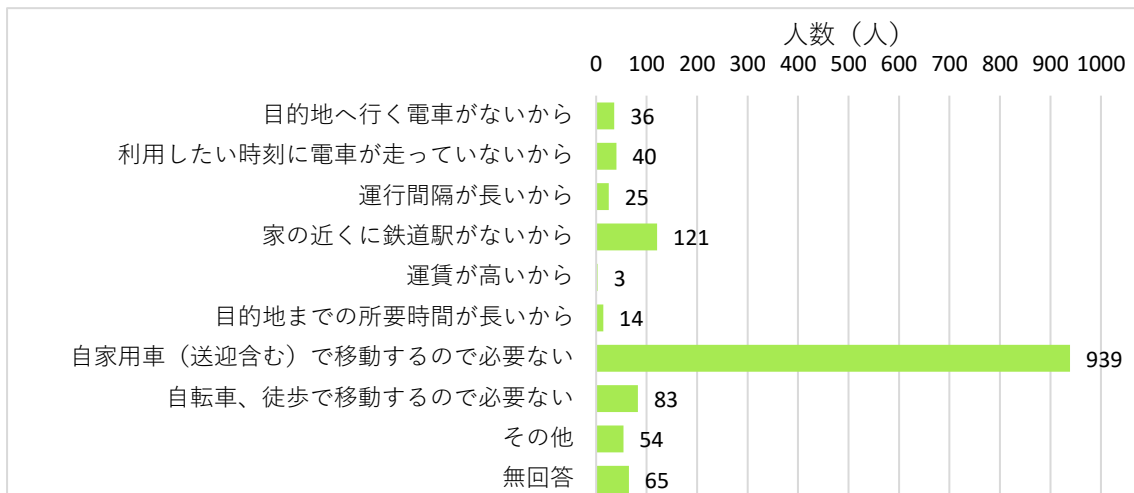
■弥彦村 交通手段別利用頻度



■スワロー号、やひこ号を利用しない理由



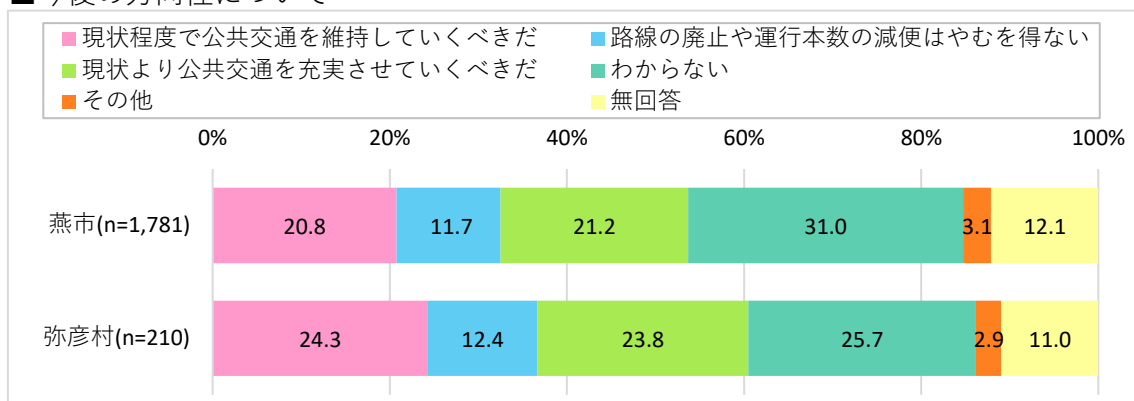
■鉄道を利用しない理由



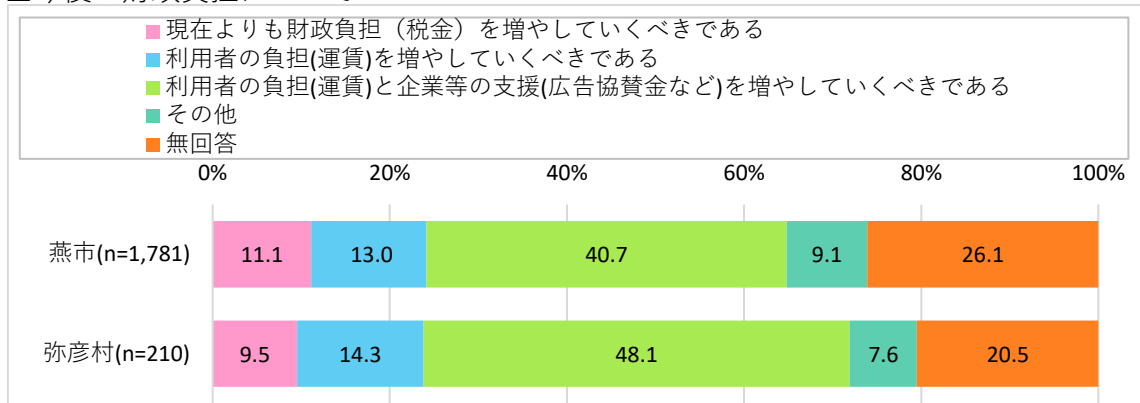
(8) 今後の取組の方向性について

- 「現状よりも公共交通を充実させていくべき」と「現状程度で公共交通を維持していくべき」という声が多い。
- 今後の財政負担については、「利用者と企業等の支援を増やすべき」という声が多い。

■今後の方向性について



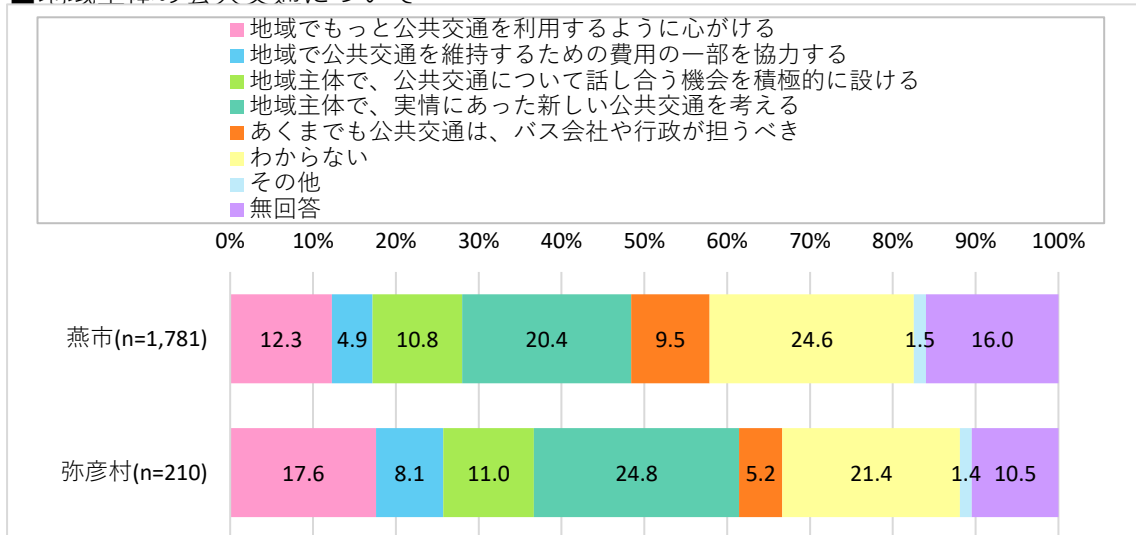
■今後の財政負担について



(9) 地域主体の公共交通について

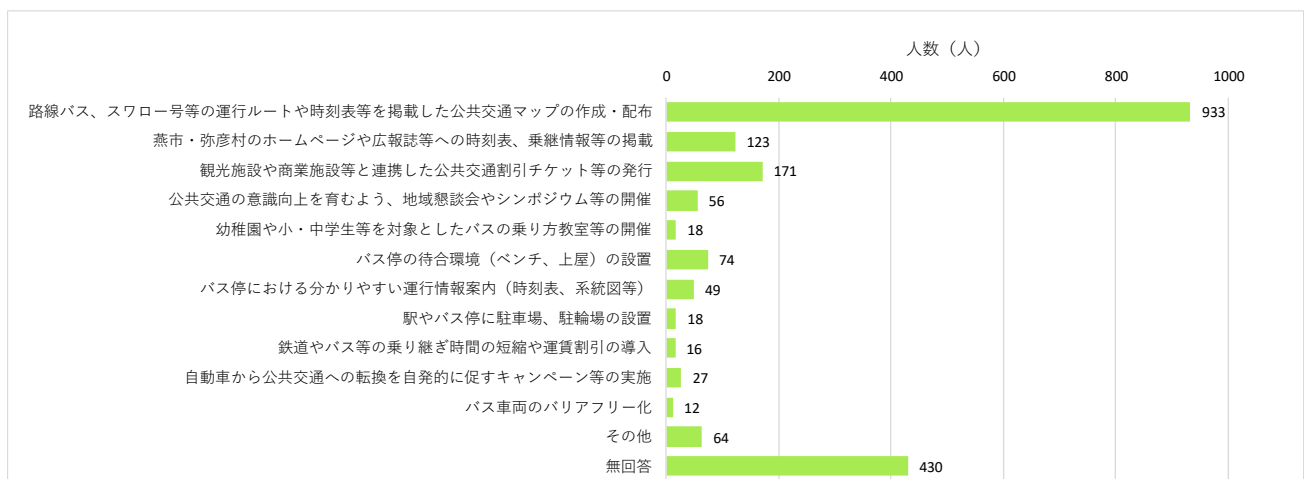
- 「地域主体で、実情にあった新しい公共交通を考えるべき」という声が多い。

■地域主体の公共交通について



(10) 利用促進に向けた効果的な取組について

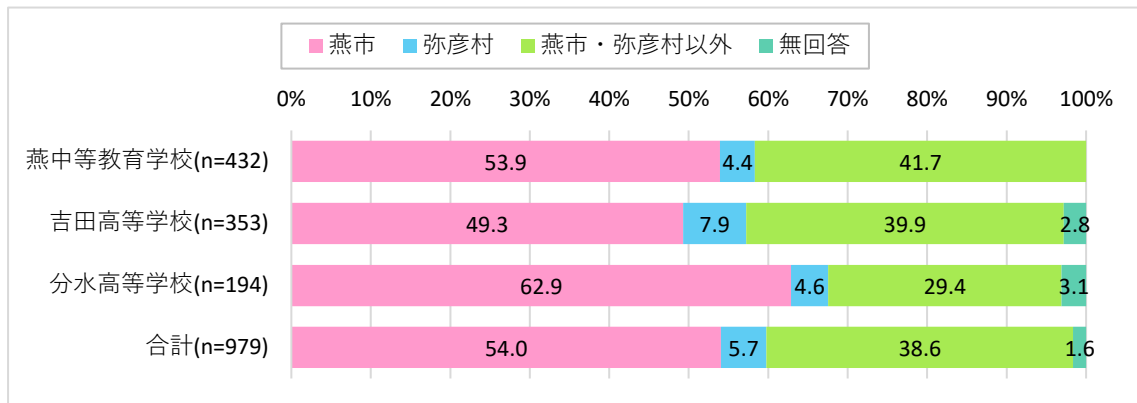
- 「路線バス、スワロー号等の運行ルートや時刻表等を掲載した公共交通マップの作成・配布」や「観光施設や商業施設等と連携した公共交通割引チケット等の発行」が多い。



3 学生（中学生、高校生）対象調査

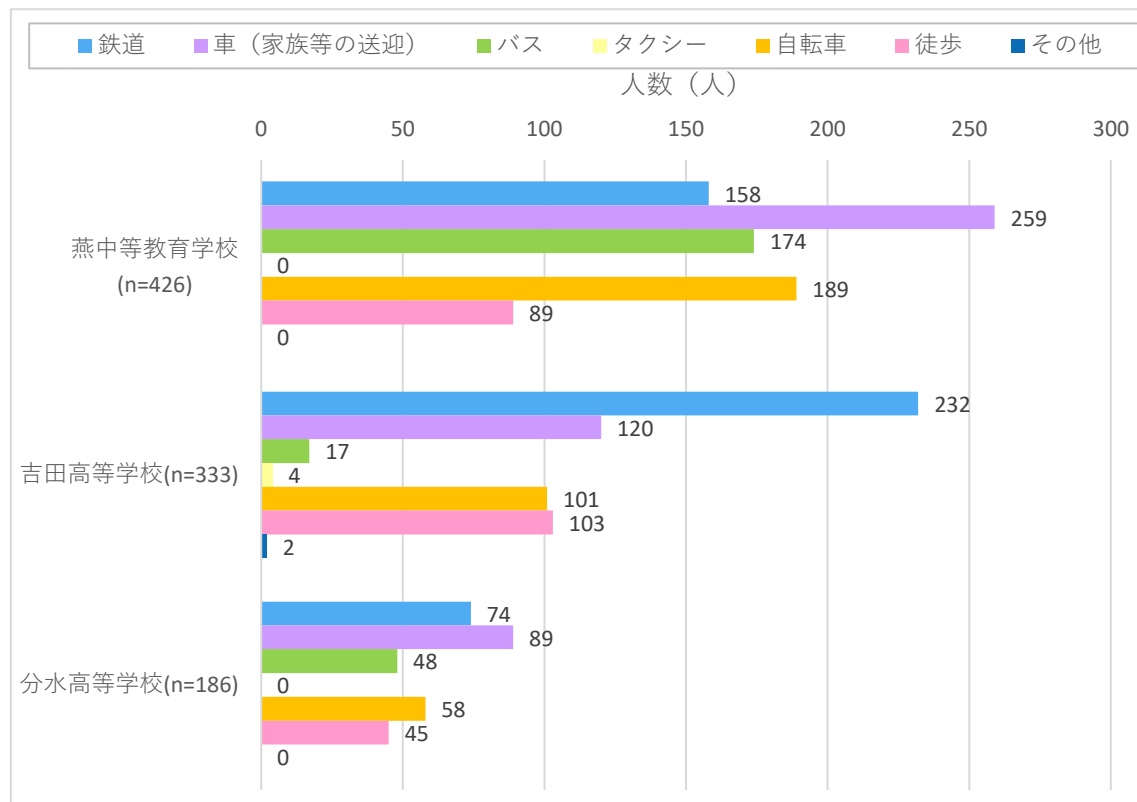
(1) 回答者居住地

- 燕市、弥彦村からの通学者が約6割程度を占めている。



(2) 通学手段

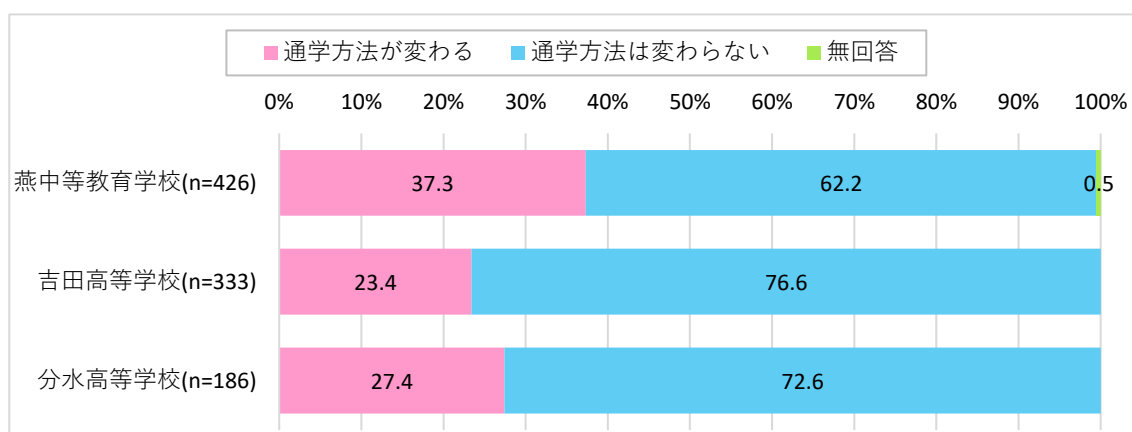
- 燕中等教育学校では、「車（家族等の送迎）」が多い。また、学校前まで路線バスが運行しているため、バス利用も多い。
- 吉田高校は、吉田駅に比較的近いため、「鉄道」利用が多い。
- 分水高校は、「車（家族等の送迎）」と「鉄道」の利用が多い。
- 学校の立地状況（駅近く、バス路線がある等）に大きく影響されるようである。



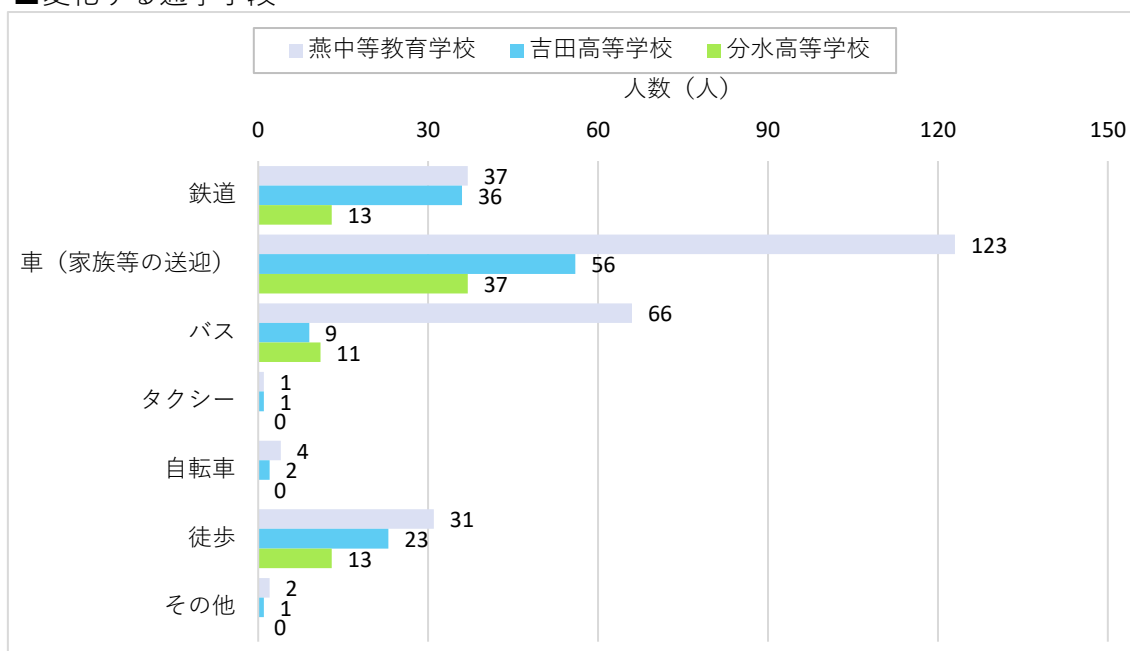
(3) 冬期の通学方法の変化

- 冬期に交通手段が変化する生徒は3割程度である。
- 通学の交通手段としては、「車（家族等の送迎）」や「バス」が増加する傾向にある。

■ 冬期の通学手段の変化



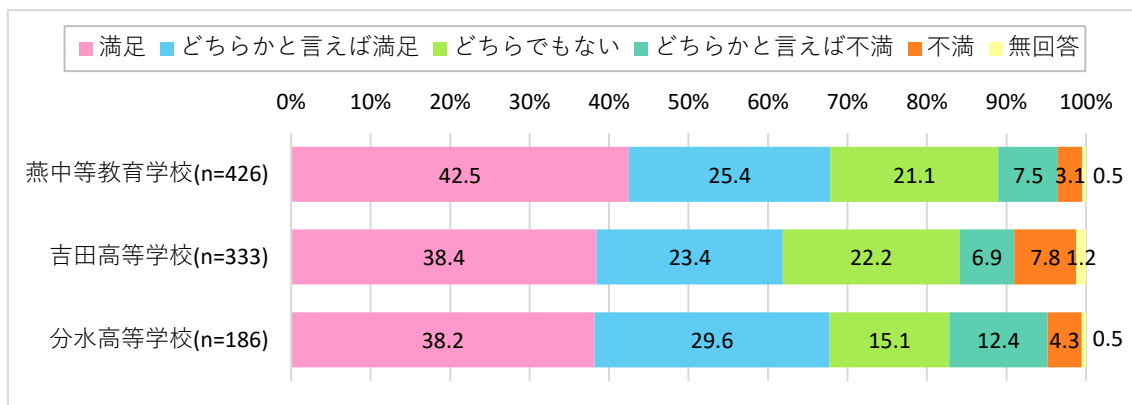
■ 変化する通学手段



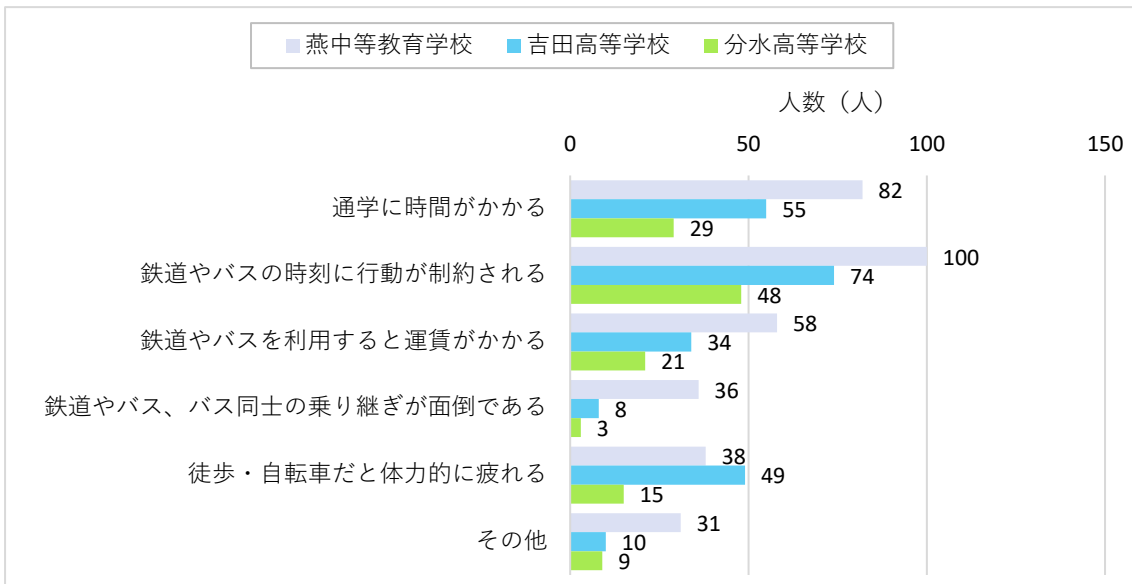
(4) 通学方法に関する満足度

- 各学校とも、「満足」と「どちらかと言えば満足」を合わせると約6割を占めている。
- 通学方法に不満を感じる点としては、「鉄道やバスの時刻に行動が制約される」「通学に時間がかかる」という声が多い。

■通学方法に対する満足度

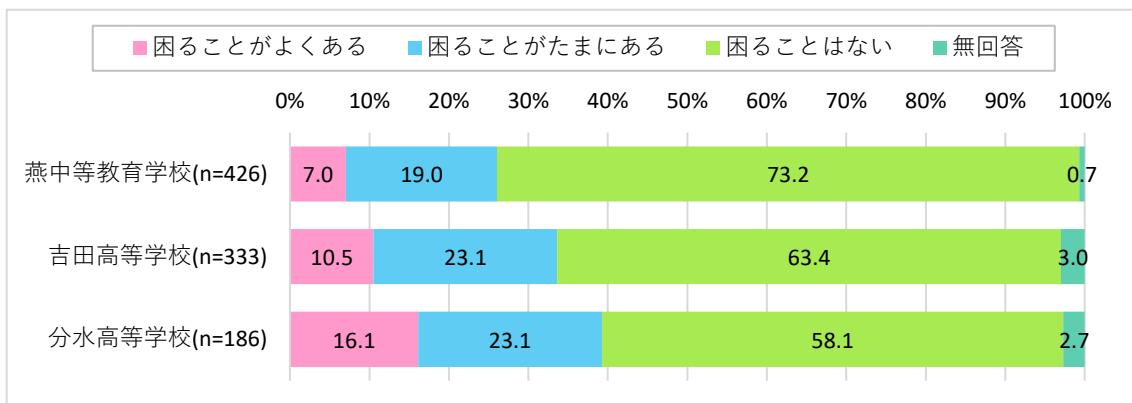


■通学方法に対する不満



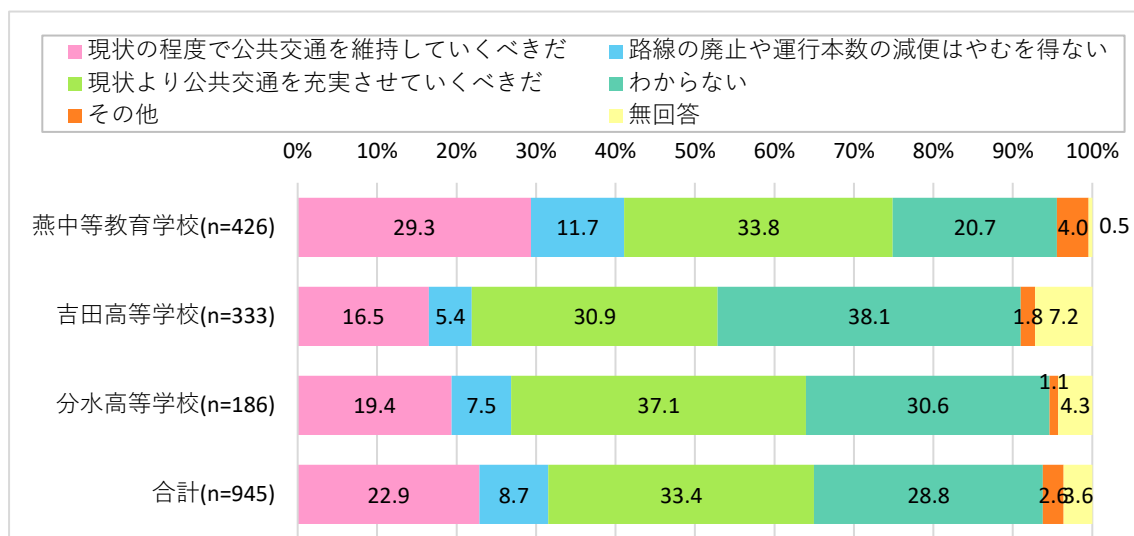
(5) 通学以外の外出について

- 通学以外の外出において、「困ることがよくある」と「困ることがたまにある」を合わせると、約3割を占めている。



(6) 今後の取組の方向性について

- 「現状よりも公共交通を充実させていくべき」という声が多い。



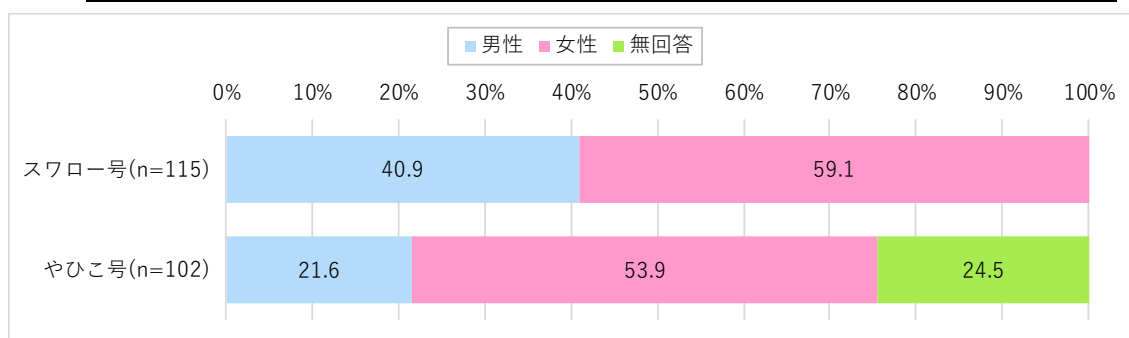
4 公共交通利用者対象調査（スワロー号、やひこ号）

(1) 性別

- スワロー号、やひこ号とも女性の乗客の方が多い。

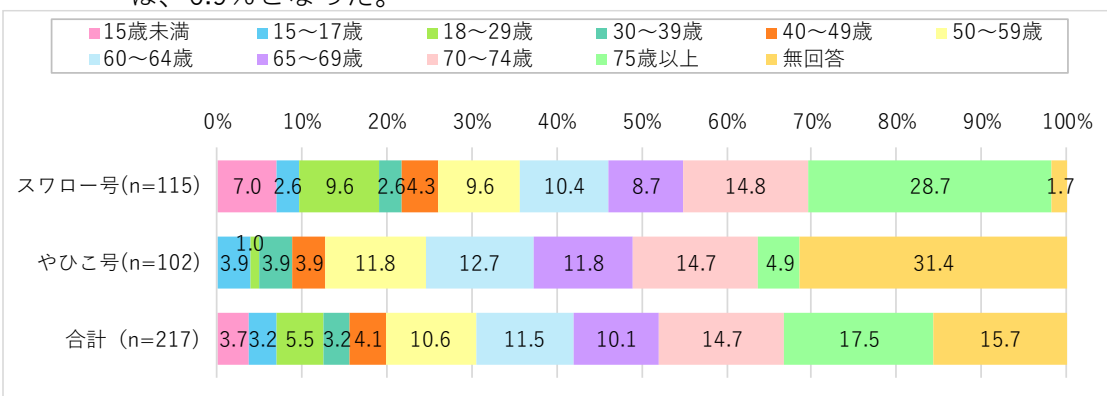
単位：人

	男性	女性	無回答	合計
スワロー号(n=115)	47	68	0	115
やひこ号(n=102)	22	55	25	102
合計	69	123	25	217



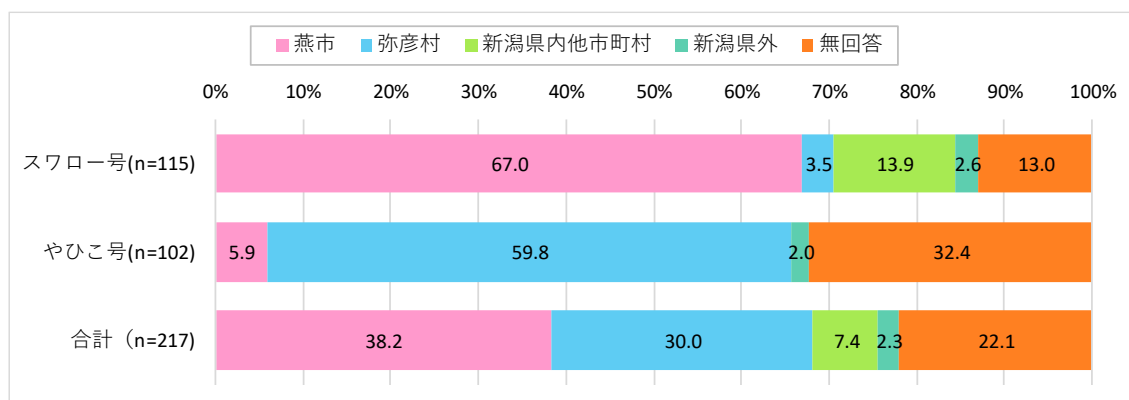
(2) 年齢

- スワロー号では「75歳以上」の層が28.7%、やひこ号では「70～74歳」の層が14.7%を占め、最も多い。
- 高齢者層（65歳以上）は合計で約4割を占めており、17歳までの利用者は、6.9%となった。



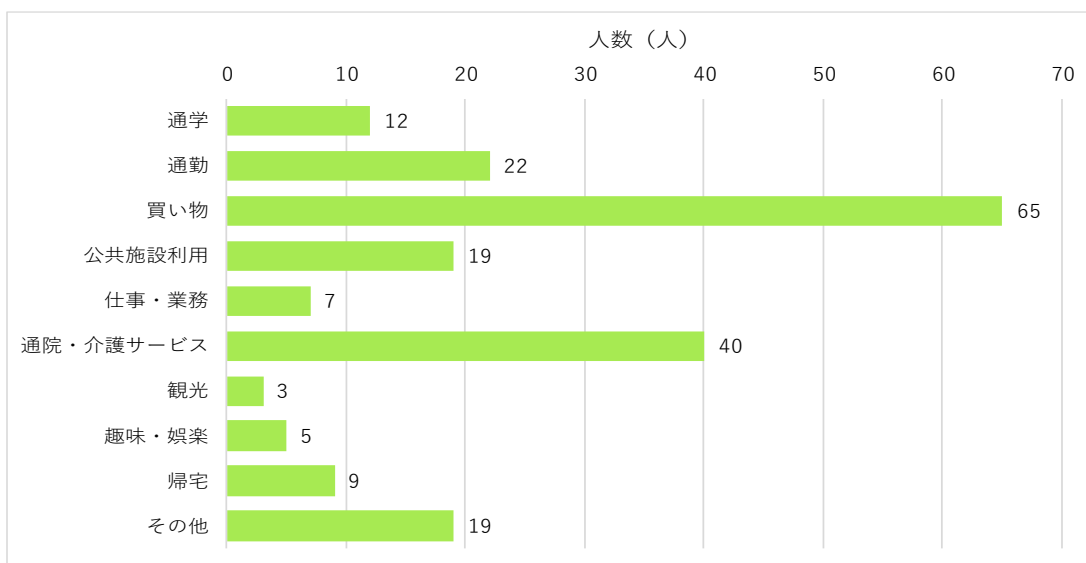
(3) 居住地

- 居住地は、全体で「燕市」が38.2%、「弥彦村」が30.0%を占めている。約1割の利用者が県外、市外となっている。

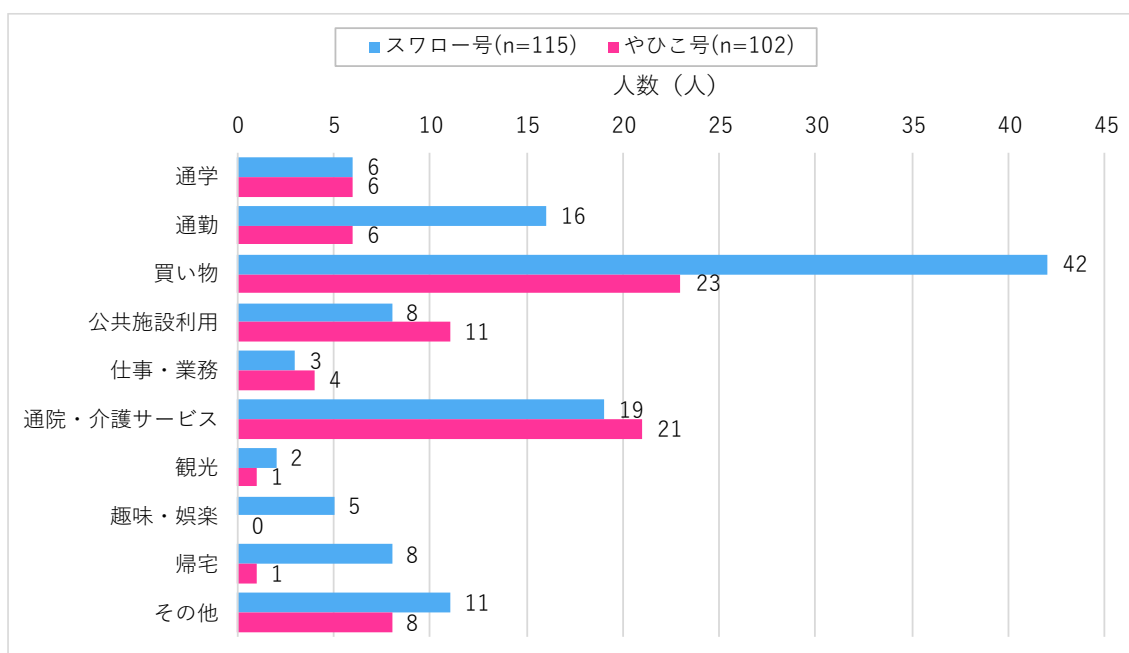


(4) 利用目的

- 利用目的は、「買い物」が最も多く 65 人を占めており、次いで、「通院・介護サービス」40 人となる。

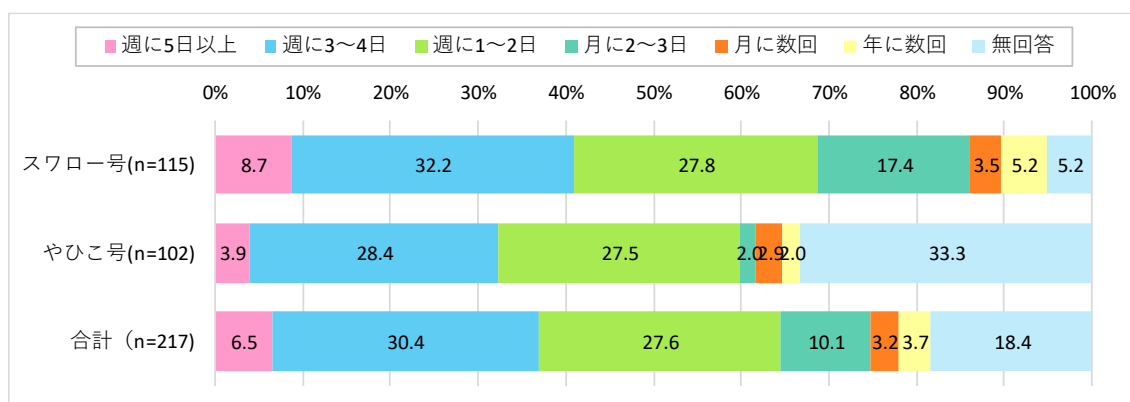


■利用目的 (路線別)



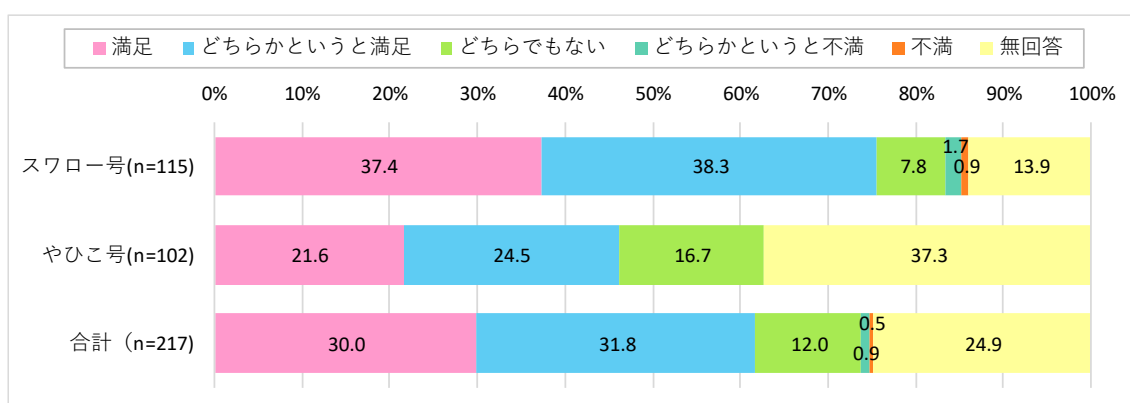
(5) 利用頻度

- 利用頻度は、「週に5日」及び「週に3～4日」を合計すると36.9%を占め、「週に1～2日」も含めると、定期的に利用する人は、64.5%となる。



(6) 運行サービスの満足度

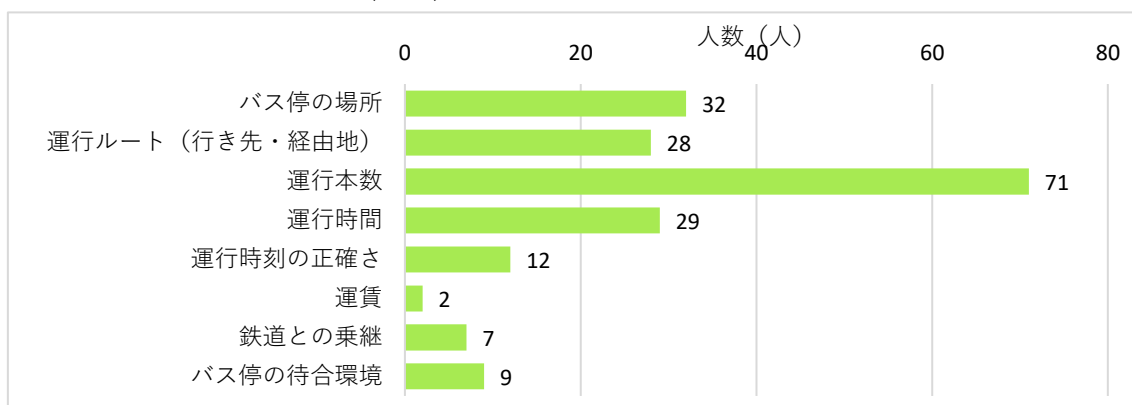
- 「満足」と「どちらかという満足」を合わせると、61.8%を占めている。特に、スワロー号の満足度は高い。



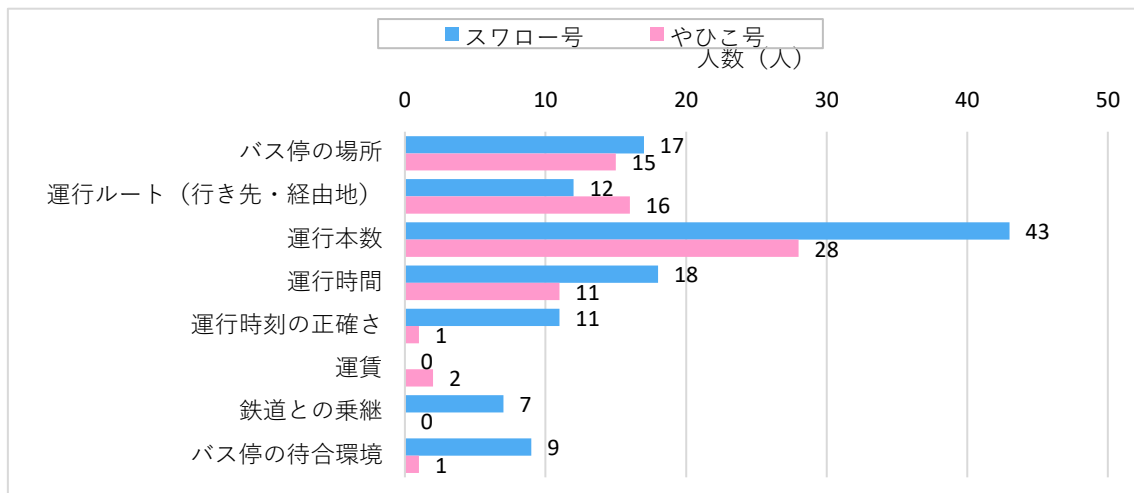
(7) 改善して欲しいサービス

- 改善して欲しいサービスとして最も多いのは「運行本数」であり、次いで「バス停の場所」、「運行時間」となっている。

■改善して欲しいサービス（全体）

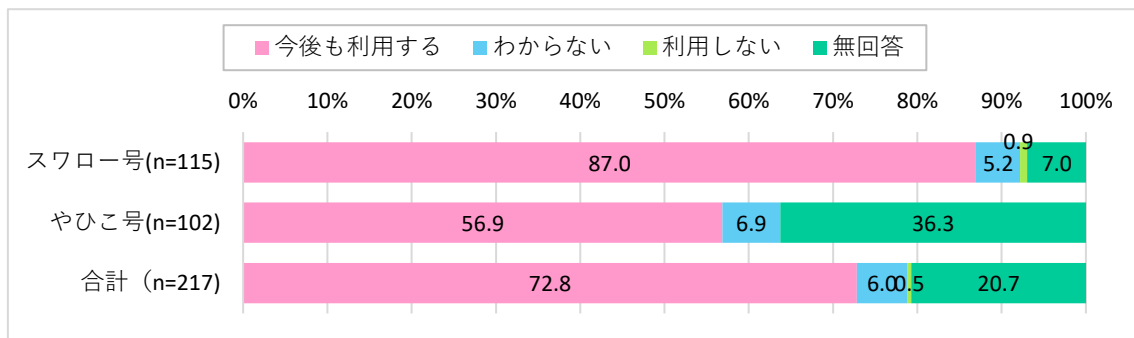


■改善して欲しいサービス（路線別）



(8) 今後の利用意向

- スワロー号では 87.0%、やひこ号では 56.9%の利用者が「今後も利用する」と回答している。



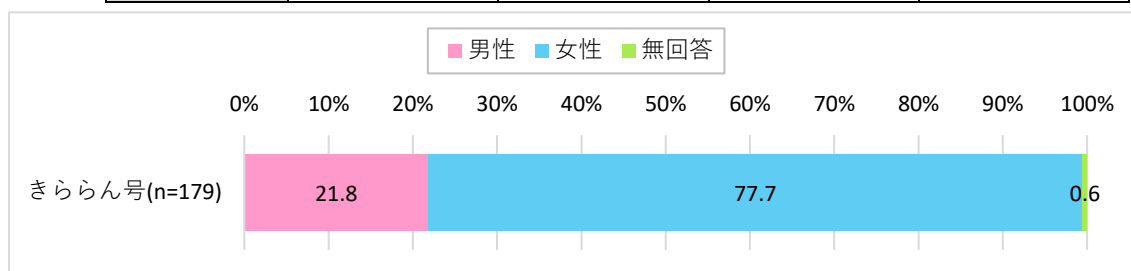
5 公共交通利用者対象調査（きららん号）

(1) 性別

- 全体としては「男性」21.8%、「女性」77.7%となり、女性の方が多い。

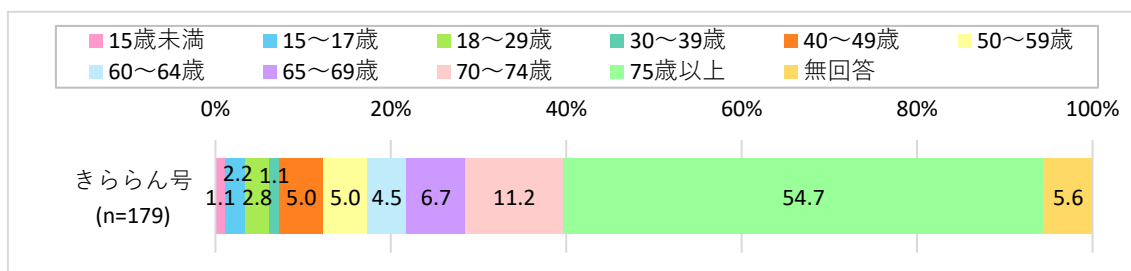
単位：人

	男性	女性	無回答	合計
きららん号	39	139	1	179



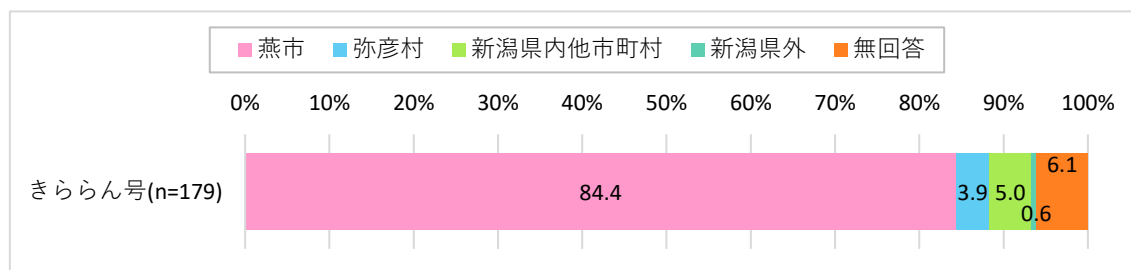
(2) 年齢

- 全体としては「75歳以上」が54.7%を占め、最も多い。「65歳以上」の高齢者層は合計で73%、「15歳未満から17歳」までの若年層は3.3%となる。



(3) 居住地

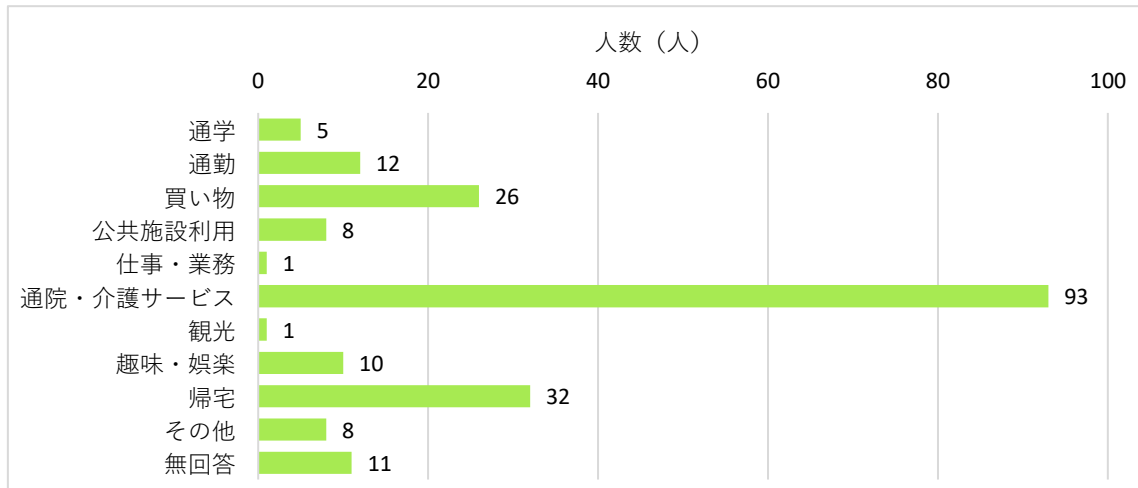
- 居住地は、「燕市」が84.4%、「弥彦村」が3.9%を占めている。「県内他自治体」が5.0%を占めている。



(4) 利用目的

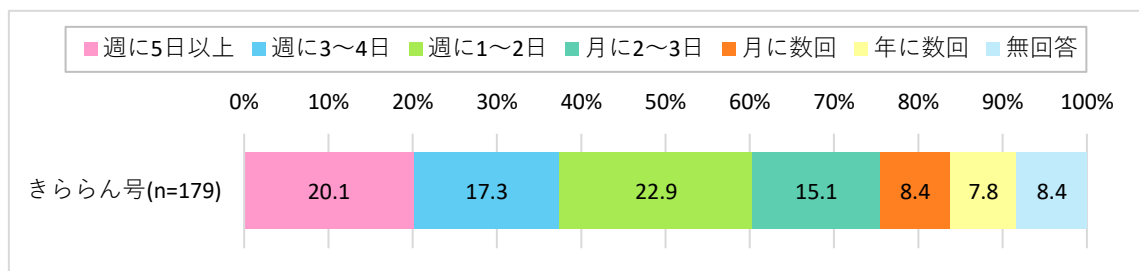
- 利用目的としては、「通院・介護サービス」が最も多く 93 人を占めており、次いで、「買い物」となる。

■利用目的（全体）



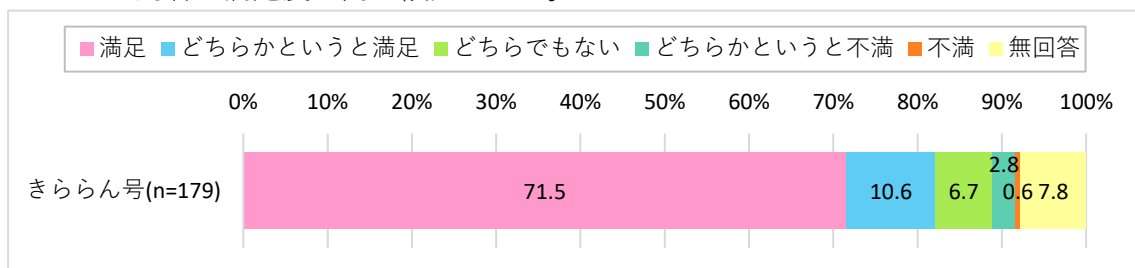
(5) 利用頻度

- 全体としては、「週に 1～2 日」(22.9%) が最も多く、週に 1 回以上利用している人が 6 割を占めている。



(6) 運行サービスの満足度

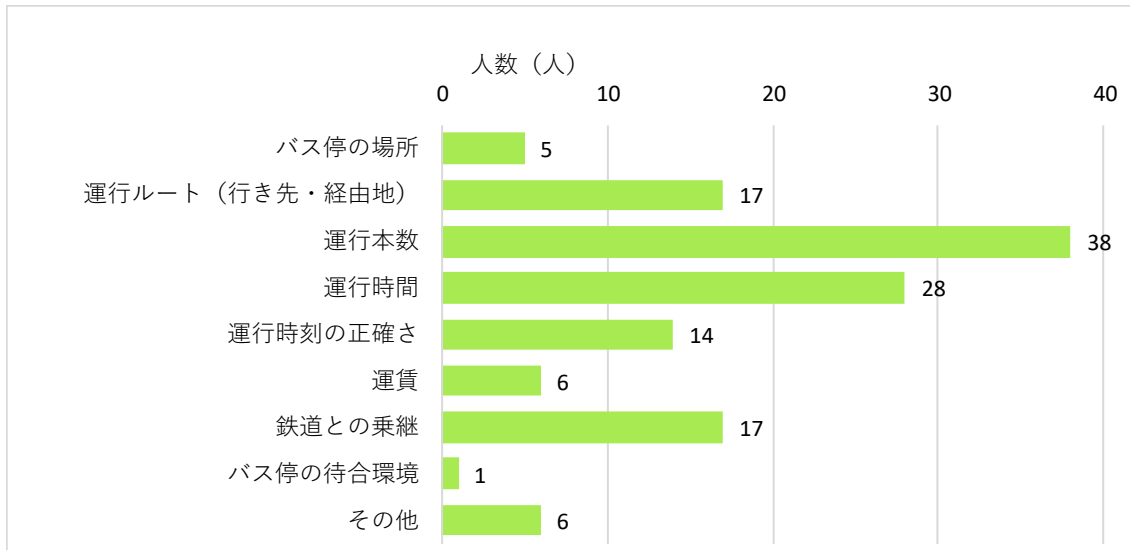
- 「満足」と「どちらかという満足」を合計すると 82.1%を占めている。利用者の満足度は高い傾向にある。



(7) 改善して欲しいサービス

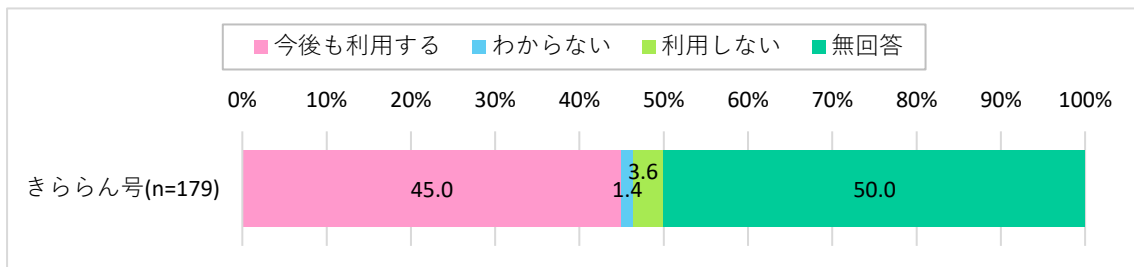
- 改善して欲しいサービスとして最も多いのは「運行本数」であり、次いで「運行時間」となっている。

■改善して欲しいサービス（全体）



(8) 今後の利用意向

- 45%の利用者が「今後も利用する」と回答している。



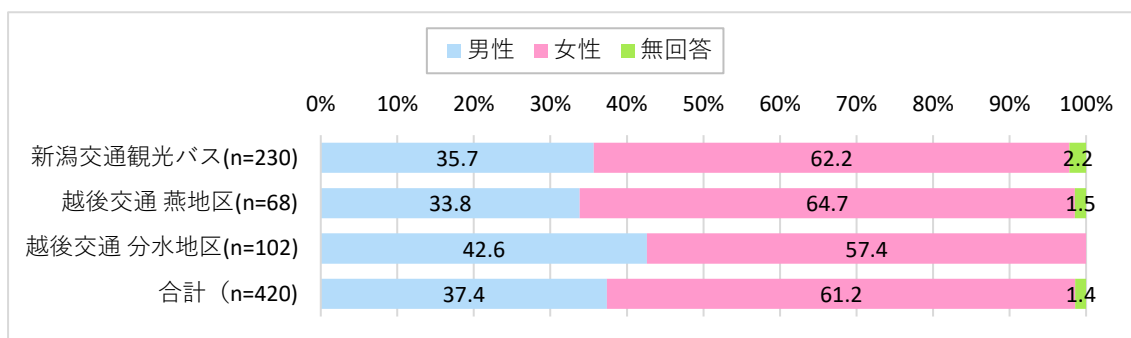
6 公共交通利用者対象調査（民間路線バス）

(1) 性別

- 全体としては「男性」37.4%、「女性」61.2%となり、女性の方が多い。

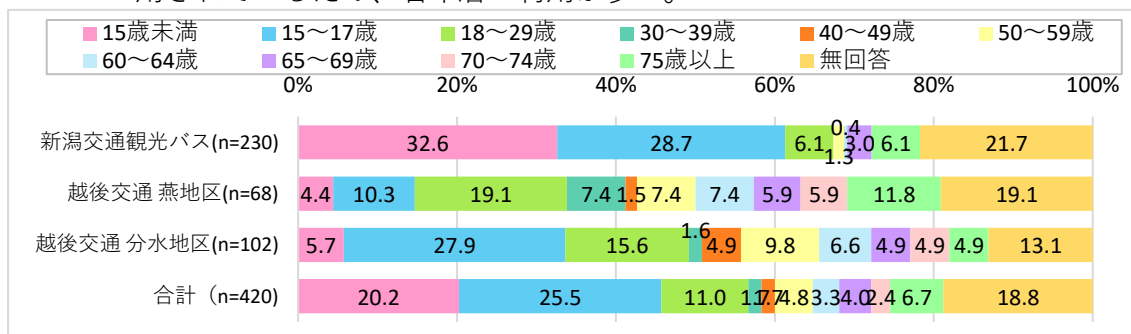
単位：人

	男性	女性	無回答	合計
新潟交通観光バス(n=230)	82	143	5	230
越後交通 燕地区(n=68)	23	44	1	68
越後交通 分水地区(n=102)	52	70	0	122
合計	157	257	6	420



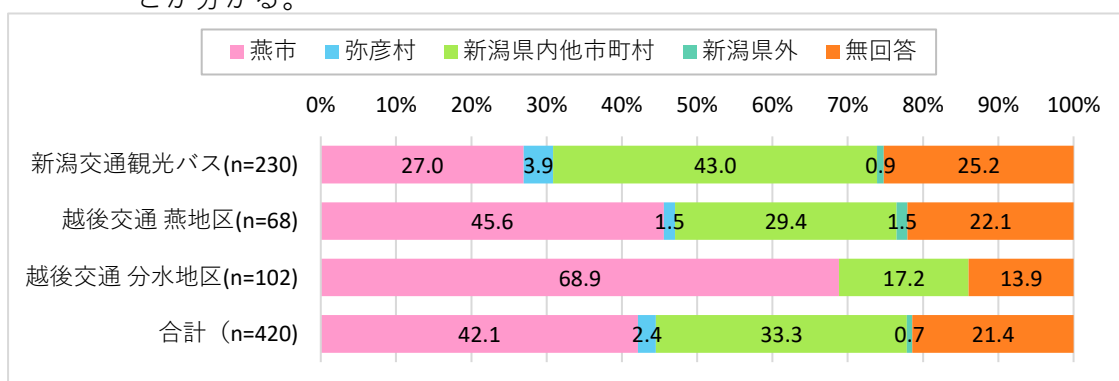
(2) 年齢

- 全体としては「15～17歳」が25.5%を占め、最も多い。新潟交通観光バス（燕中等教育学校への通学）、越後交通分水地区（分水高校への通学）に利用されているため、若年層の利用が多い。



(3) 居住地

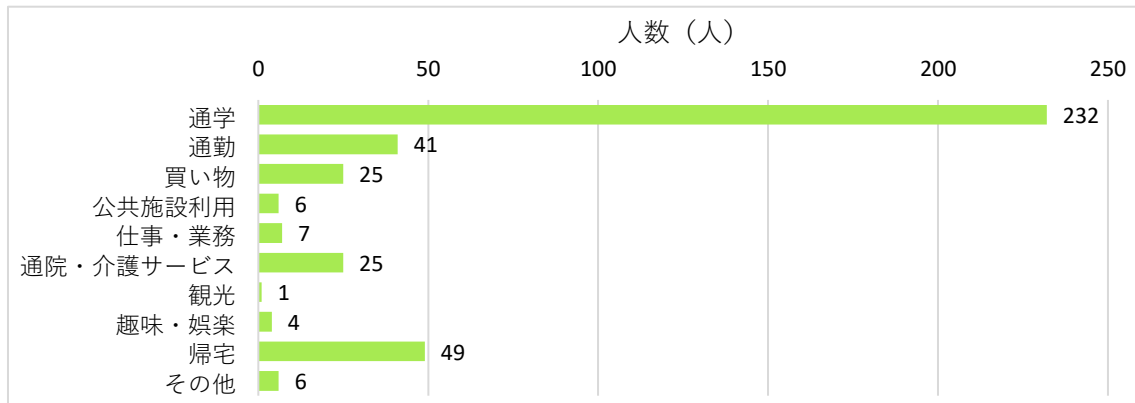
- 居住地は、「燕市」が42.1%、「弥彦村」が2.4%を占めている。
- 「県内他自治体」が33.3%を占めており、広域的な移動に利用されていることが分かる。



(4) 利用目的

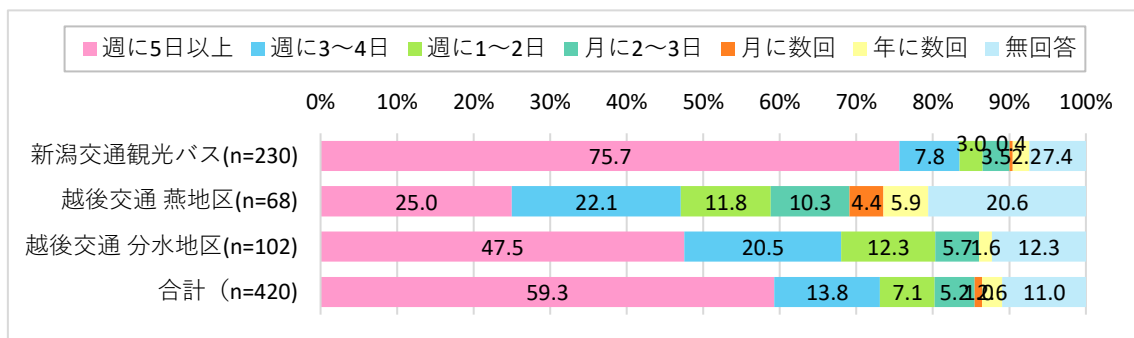
- 利用目的としては、「通学」が最も多く 232 人を占めており、次いで、「公共施設利用」「買い物」となる。

■利用目的（全体）



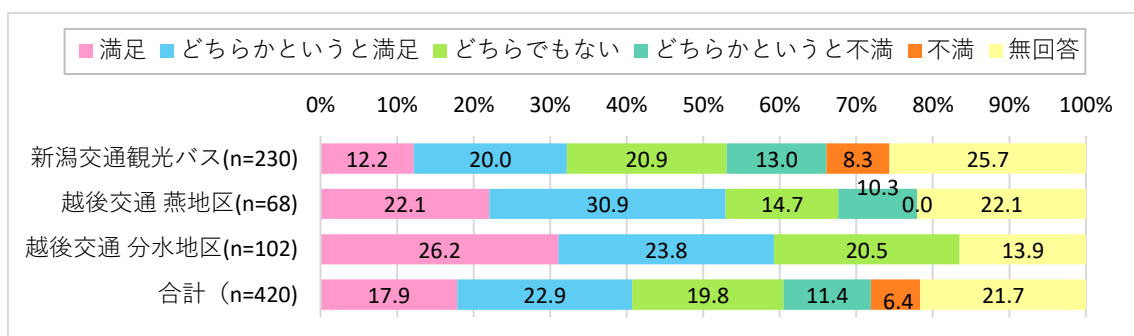
(5) 利用頻度

- 利用目的として通学利用が多いため、利用頻度も「週 5 日以上」(59.3%) が最も多い。



(6) 運行サービスの満足度

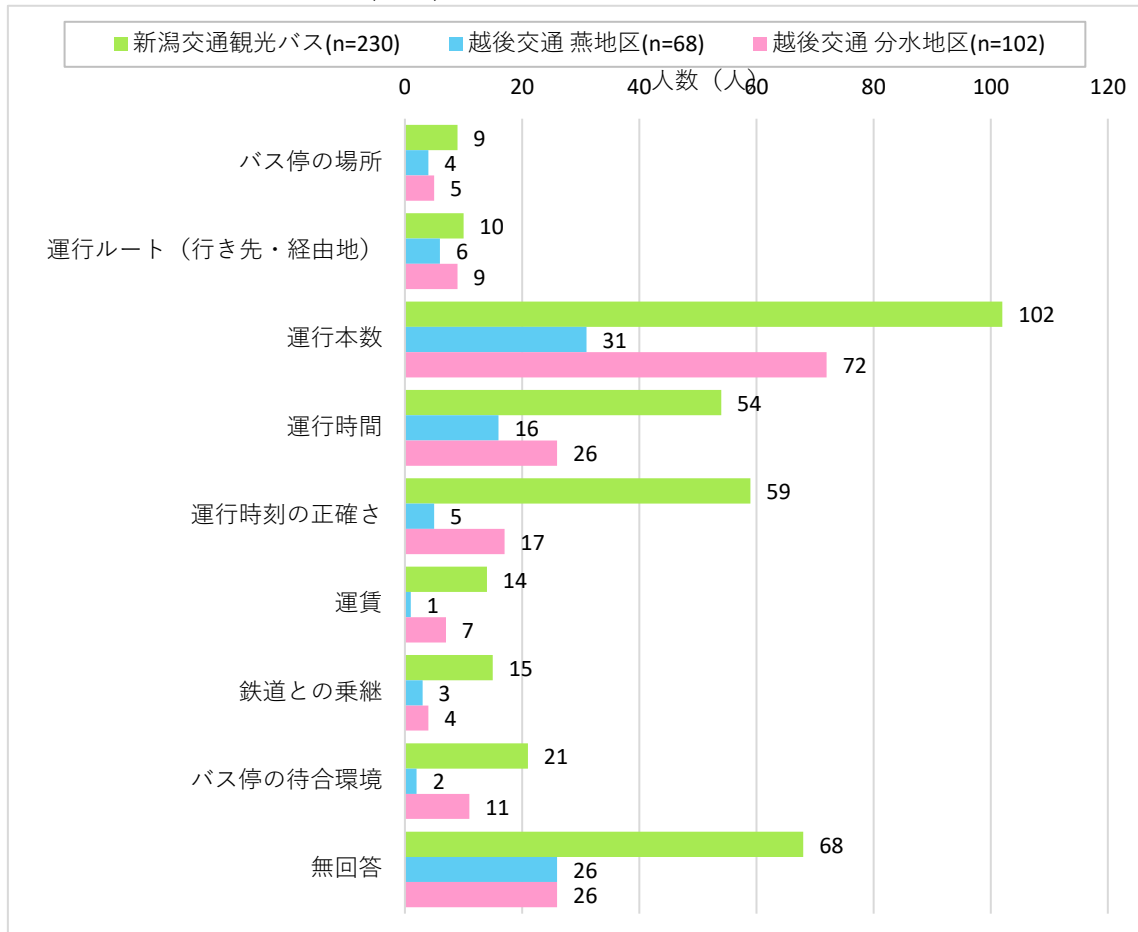
- 「満足」と「どちらかという満足」を合計すると 40.8%を占めている。



(7) 改善して欲しいサービス

- 改善して欲しいサービスとして最も多いのは「運行本数」であり、次いで「運行時間」、「運行時刻の正確さ」となっている。

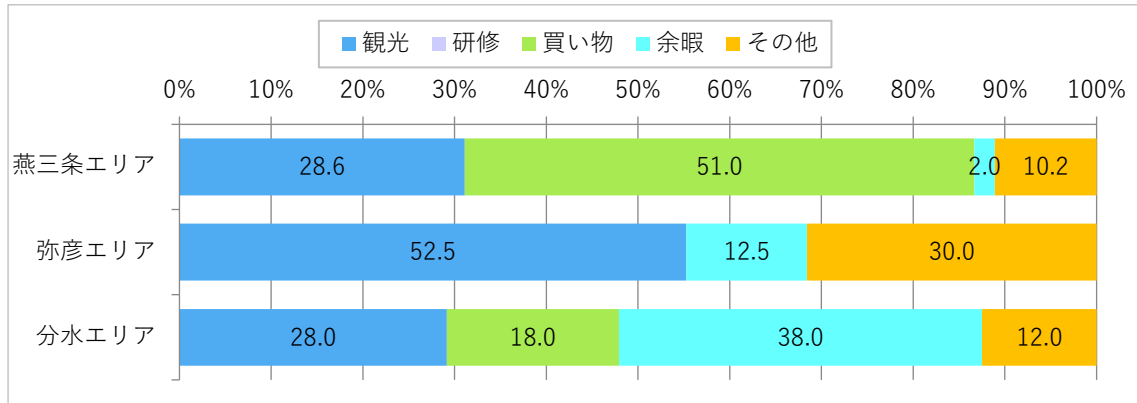
■改善して欲しいサービス（全体）



7 観光客対象調査

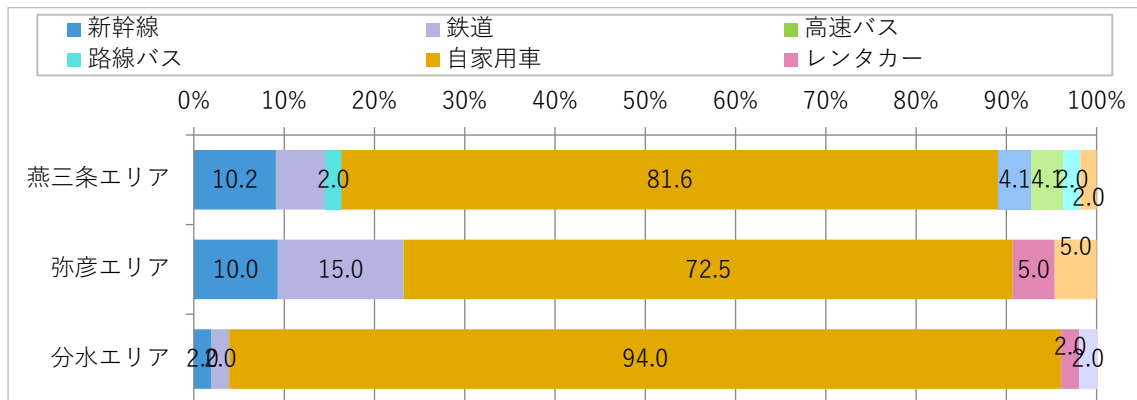
(1) 来訪目的

- 観光や余暇目的の来訪が多い。
- 燕三条エリアは買い物目的が多く、弥彦エリアは、観光目的の来訪が多くなっている。



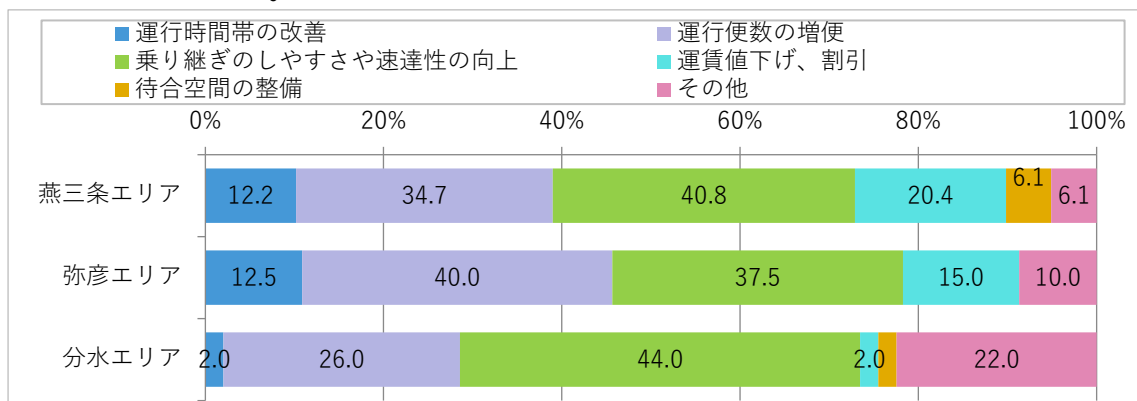
(2) 交通手段

- 交通手段は、自家用車が最も多い。
- 弥彦エリアにおいては、新幹線と鉄道を利用した来訪者が 25%いる。観光を目的に、遠方からの来訪が想定される。



(3) 公共交通を利用するための対応

- 「運行便数の増便」「乗り継ぎのしやすさや速達性の向上」が改善点として望まれている。



(4) 公共交通を利用する可能性

- 公共交通の利用に当たっての課題（(3) 公共交通を利用するための対応回答）が改善された場合、利用したいと考えている方は概ね5割いる。

